

Special Essay

校 歌

学 長 永田 見生

久留米大学には、1)高良山下の学園に万朶の桜が咲きそろい、に始まる附設中学・高校の校歌、2)近代の医学興れり、我等承けたり、の九州医学専門学校、3)高良の翡翠秘やかに、の久留米医科大学予科寮歌、そして、4)緑は波打ち南の光はずむ、の現代の校歌がある。どれが、一番好きかと質問されれば、附設出身者は1と答える人が多いと思う(私は明善高校卒)。そうではない医学部の大先輩は2か3、若い人は、2と3の存在は知っていても聞いたことがないので、4としか答えようがない。校歌には地名が入ることが多く、高良山が1,2と3で歌われており、千歳川(筑後川の旧称)は1と2で、筑紫野は3と4で歌われている。高良山の名称は全国に一つしかないが、千歳川は複数あり、北海道の支笏湖から千歳市を流れる石狩川水系の千歳川が有名で、同じく北海道の登別川の旧称でもあり、神奈川県と静岡県の間にもある。高良山には、筑後一の宮である高良大社があり、古代に作られた2.6kmにおよぶ神籠石(こごういし)と呼ぶ列石に囲まれている。昭和天皇の即位の儀式で鎮魂のための神楽の舞歌に「ちはやぶる高良の山の神籠石・・・」と歌われたほどの聖なる遺跡である高良山の名がある歌詞には、筑後川より千歳川の方が相応しいと思う。

医学部の校歌としては、私は九州医学専門学校校歌が好きです。この歌は北原白秋の作詞で、見守れ現身(うつつみ) 救え人なり、国手の矜持(ほこりと振り仮名あり)は常に仁なり、など見識深い言葉が数多く使われ、医学生としてあるいは医師としてあるべき姿勢を歌った校歌だと思う。附設の校歌の作詞は、高等学校創立時に板垣政参初代校長と苦労を共にされた国語教師の大石亀次郎先生で、多くの教え子を薫陶されたと聞いている。歌詞は、太平洋戦争の敗戦で物心ともに荒廃した我が国を再建すべく、学力に加え人格的に立派な人間を育成すべしとの思いが込められた、修羅道の世を救うべく平和の偉業任として、などがある。現在の久留米大学校歌は、医学部の先輩で詩人としても有名な丸山豊先生の作詞で、久留米大学発展を囑望した歌だと感じます。そして、本学の教育の基本理念である、真理と正義の探求を紺碧の空のような心で育むように諭している。3月は卒業式、4月は入学式で校歌を歌う機会が多い。校歌を作詞、作曲された先達の本学に対する深い思いを感じつつ合唱し、同窓会では旧校歌も必ず歌って戴きたい。

